

ジャガイモヒゲナガアブラムシの発育と増殖に及ぼす寄主植物の影響

○柿元一樹・井上栄明
鹿児島県農業開発総合センター

ジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani* (Kaltenbach) は、世界に広く分布する広食性の農業害虫である。我が国では、ジャガイモおよびダイズ等の害虫として多くの報告がある。近年では、施設栽培ピーマンでの発生も課題となってきている。施設ピーマンでは、スワルスキーカブリダニ *Amblyseius swirskii* Athias-Henriot や捕食性カメムシ類等を利用した生物的防除の進展が目覚ましい。このような管理体系下では、殺虫剤の使用回数を大幅に低減することが可能である。演者らは、施設ピーマンにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの顕在化は、殺虫範囲の広い殺虫剤の使用が低減されたことが最大の要因であると考えている。このことは、施設野菜での生物的防除技術が進展すると、ピーマンのように本種の発生が顕在化してくるリスクも含んでいる。

そこで演者らは、ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生が顕在化する可能性がある作物を予め把握し、リスク管理へ活かすため、室内実験において様々な作物（表 1）を本種へ与え、発育および増殖の程度を調べた。

表 1 ジャガイモヒゲナガアブラムシの飼育実験に供試した作物

植物			
ナス科	ジャガイモ	キク科	シュンギク
	ナス		レタス
	ピーマン	アブラナ科	キャベツ
	トマト		コマツナ
ウリ科	カボチャ		チンゲンサイ
	キュウリ	ヒルガオ科	サツマイモ
マメ科	サヤインゲン	アオイ科	オクラ
	サヤエンドウ	バラ科	イチゴ
	ソラマメ		

温度 20℃および光周期 14L10D の条件下において、発育期間、生存率および産仔数を調査した結果、本種の増殖率が高かった作物は、ナス科およびウリ科の他、ソラマメおよびサツマイモであった。

Effect of host plants on development and reproduction of the foxglove aphid, *Aulacorthum solani* (Kaltenbach)

Kazuki Kakimoto, Hideaki Inoue
Kagoshima Prefectural Institute for Agricultural Development